

家の中で使われていた懐かしい製品

■テレビ



テレビのチャンネルを変えるツマミ

これは「有線」と呼ばれる電話機。4ケタの番号を回すと有線を設置している町内のお家と通話ができました。



▲リモコンが登場する前のテレビ。チャンネルを変えたり音量を調整したりするときは、テレビ本体についているツマミを手で回していました。

■ミシン



▲足踏み式のミシン(左)。昭和39年頃のもので、ミシンは台の中に収納できる仕組みになっています。ミシンの左側は作業スペースとして使え、とても便利。見た目もオシャレです。右のミシンは持ち運びできるタイプ。こちらは昭和12年頃に使われていたようです。

■鏡台



▲鏡のカバーとして布がかかっています。

■オルガン



▲小学校の教室で見たことがある方もいるのでは!?

進化している電化製品!

■冷蔵庫は木でできていた!



▲昭和初期の冷蔵庫。上の段に氷を入れて中を冷やしていたそう。昔は毎日氷売りが来ていたのだとか。大きさも今の冷蔵庫と比べると、とても小さいことがわかります。



▲昭和32年頃の製品。「懐かしい!」と感じた方もいるのでは!?

■炭から電気へ アイロンの進化



▲(上)「火のし」は持ち手の先についている金属の器に熱した炭を入れ、その熱と重みで布のシワをのばします。このような仕組みの道具は約1,000年前の平安時代のころから使われていました。(下) 現代のアイロンの形状に近づいてきましたね。蓋を開けて中に炭を入れて使っていたようです。



▲初期の電気アイロン。2色使いの電気コードが懐かしい!?

■お釜



▲左の釜は竈でお米を炊いていた頃のもの。右の白いお釜は昭和35年頃の電気釜ですが、予約機能はまだついていませんでした。

はむらのむかしにタイムスリップ 発掘! 郷土博物館収蔵品

羽村市の自然や風土、歴史などの資料を収集、保存、調査研究し、公開しているのが「羽村市郷土博物館」です。郷土博物館は昭和60年に開館し、16万点以上の収蔵品を保管しています。今回は郷土博物館の収蔵品の中から「むかしのくらし」にスポットを当てて紹介します。

問合せ 郷土博物館 ☎ 558-2561



郷土博物館の収蔵品を紹介します!



郷土博物館職員▶

昔のベビーカー。1月の企画展「むかしのくらし」で展示していた物ですが、最近、このようなかごに保育園児を乗せて散歩をしている光景を目撃! 今でも大切に使われているんだなど、心が和みました。

▲郷土博物館職員

ひな人形展

女の子の成長をお祝いするひな人形。華やかなひな人形をご覧ください。

日時 3月7日(日)までの午前9時~午後5時

会場 企画展コーナー、オリエンテーションホール

▲御殿びな ▲七段飾り

収蔵品を取材して、むかしの暮らしで使われていた物は、暮らしの中の知恵がぎゅっと詰まった、工夫を凝らした物がとても多いと感じました。また元の持ち主が日々大切に使用していたからこそ、現代まで引き継がれてきていることにも感慨深いものがありました。便利な物が多い現代ですが、収蔵品には昔の人からのメッセージがたくさん隠れているのかもしれない。皆さんも郷土博物館で、そのメッセージを感じてみてください。

こんなものも収蔵している!

▲袋いっぱいのお繭。以前は養蚕が盛んだった村。養蚕用具もたくさん保管されています。

▲中里介山が使っていた入れ歯。こんなものまで保管されているとは…!

収蔵庫をのぞいてみました

収蔵庫は、寄贈された資料を管理、保管する場所です。温度や湿度の変化が少なくなるよう調整されています。寄贈資料は、ほこりや虫の卵などを取り除いた後に、燻蒸(目に見えない虫などを除去する作業)をしてから収蔵庫に保管しています。